

保育園の自己評価について

保育園の自己評価について 認定こども園法により、教育及び保育並びに子育て支援事業の状況、その他の運営の状況について自己評価を行い、その結果の取りまとめについて、公表が義務づけられております。こうした状況のもと、様々な課題に取り組む姿勢が求められる中、とりわけ、保育士の専門性の向上、更に、園内外の研修をより一層キャリアアップした成果を、毎年の事業計画に反映させる必要があります。

当保育園では、毎年、数次にわたり、「当保育が独自に作成した自己評価チェックリスト」を基に、自己評価を行い、その結果を情報公開 を行うことにしております。

<評価方法> ○：十分理解している（十分できている） △：理解している。（できている） ×：努力が必要

自己評価チェックリスト集計表

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
<p>(1) 保育のねらい及び内容</p> <p>「保育の目標」を達成するために「ねらい」があり、「ねらい」をより具体的ににしたものが保育の「内容」であることを理解している。</p> <p>養護と教育を一体的に行うために、保育のねらい及び内容を養護と教育の両面から捉える視点をもって保育にあたっている。</p> <p>養護と教育は、子どもの生活や遊びを通して相互に関係を持ちながら、総合的に展開されることを理解している。</p> <p>「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は子どもの活動がより豊に展開されるための発達援助であることを理解している。</p>	50%	50%	0%	
<p>(2) 保育の実施上の配慮事項</p> <p>子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行わなければならないことを理解している。</p>	67%	33%	0%	<p>・年齢や個人の発達状況を考え、一人一人に必要な配慮を心掛けている。</p>
<p>● 養護 生命の保持 ●</p> <p>(3) 子どもが日々を過ごすための安全な環境や適切な衛生状態を作ることができる（幼児）</p>	67%	33%	0%	

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
毎日の清掃のほか、玩具や遊具の消毒を定期的に行っている。	73%	27%	0%	・土曜日などできる時に衛生面の事を考え行うようにしている。
各部屋の採光、温度、湿度、換気に配慮している。	82%	18%	0%	・季節ごとに室内環境を整え、子ども達が健康に過ごせるようにしている。 ・たまたに換気をしている。
事故や怪我のないように見守りながら、安全に過ごせるように配慮している。	64%	36%	0%	・玩具が散乱して足元が危険な時があった
(4) 一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる(幼児)				
登園してくる子どもに、あいさつをしながら、視診・触診をして健康状態を確認している。	91%	9%	0%	・顔の傷などに注意して視診をするようにしていた。 ・一人一人視診をし変わった事がないかコミュニケーションを取ってきた。 ・調子が悪そうな子がいたら体温を測るようになっている。
保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、子どもの健康情報を共有し、アレルギ一、熱性痙攣、脱臼癖、せんそくの有無などの既往症について、すべての直接処遇職員に対して周知するとともに、その発症時の対応についても保護者と話し合いがなされている。	91%	9%	0%	
子どもの発育・発達状態の把握として、体重、身長、などの計測を定期的に行っている。	91%	9%	0%	
(5) 食事、排泄、睡眠、休息を満たすことができる(幼児)				
食事は、旬のものや季節感のある食材やメニューを取り入れ、個人差や食欲に応じて量を加減できるように工夫している。	82%	18%	0%	・量を調節し、様子を見て行っている。
激しい活動後、休息が必要な子どもには、ゆっくり体を休ませるような配慮をしている。	91%	9%	0%	・子どもの様子を見て、水分補給や休息等働きかけてきた。
一人一人の排泄感覚を把握し、トイレに行くことをせかしたり強制したりせず、一人一人のリズムに合わせている。	64%	36%	0%	
除去食を行っている子どもに対しては、他児との差別感をもたせないよう配慮し、クラスの子どもたちにも理由を説明し、理解できるようにする。	70%	30%	0%	

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
(6) 子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くことができる				
家庭環境、身体的能力、精神的成長の差から生じる子ども一人一人の違いを把握している。	64%	36%	0%	
一人一人とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いている	91%	9%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の性格を理解し個人的な声掛けを多くして交流をした。 忙しい時もあるがなるべく会話ができるように声掛けしている。
自分を表現する力が十分ではない子どもの気持ちをくみとりとうと心がけている。	64%	36%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 発語が不十分な子が多い為、丁寧に話を聞くように心がけた。
登園時に泣く子どもに対して、状況に応じてやさしく声をかけたり抱きしめたりしている。	73%	27%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 段階にもよるが子どもの事を考え行っている。
● 教育 健康 ●				
(7) 生活に必要な基本的週間や態度を身に付けさせることが出来る(幼児)				
朝の登園時間帯を含め、一日の生活リズムの大切さを保護者に伝える。	55%	45%	0%	
衣類の着脱にあたっては、自分でしようとする気持ちを大切に励ます、ほめるなどして、着脱への意欲が持てるよう必要な援助を行っている。	82%	18%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 就学前に必要な事は、こどもや保護者にも伝え行えるようにしている。
園内での睡眠にあたっては一人一人の子どもに適した接し方をし、十分に眠れるようにしている。また、目覚めたときは、適切に応じるようにしている。	73%	27%	0%	<ul style="list-style-type: none"> なかなか眠れない子の対応について担任間でよく話し合った。
トイレでの紙の使い方などを具体的に知らせ、一人でするよう指導している。	67%	33%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 年齢に応じて適した声掛けを見守ることもしてきた。
(8) 運動遊びを充実させ、やり遂げた喜びや自信が持てるような配慮ができる(幼児)				
安全に十分配慮しながら、冒険的な活動に挑戦させ満足感を与えている。	50%	50%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 危険が伴わない範囲では考え行っている。

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
運動会など園での行事を通し、自分なりの目標を持たせ、最後までやり遂げた達成感を味わわせ、向上心を養っている。	70%	30%	0%	
遊びがなかなかうまくできない子どもには、保育者が一緒に関わり、コツを教えたり、友だち同士で教え合うように配慮したりしている。	70%	30%	0%	・なるべく自分たちで出来るよう見守るようにしている。
クラスの中で、頑張っている子どもの様子を伝えたり、できるようにしたことなどを伝えたりして、その子どもの自信につなげるようにしている。	80%	20%	0%	・行事を通し、頑張っている事を認め、自信となって次へつなげられるような声掛けを行えるようにした。
● 教育 人間関係	/			
(9) 意欲的に人と関わり、ルールを守って活動する心地よさを味わわせることができる (幼児)	73%	27%	0%	
いろいろな人と触れ合うことの楽しさを子どもに伝えることができる。	60%	40%	0%	・できる時は、なるべく鬼ごっこやゲームなどを取り入れ行っている。
個人と集団で行う活動を取り入れ、人間関係を築ける機会をつくっている。	90%	10%	0%	・できなかったことが、日々のチャレンジで出来るようになり達成感や満足感を一緒に喜び合ったり、意欲を高められるように保育してきた。
(10) 自己の意見を主張したり、相手の意見を受け入れたり譲り合うことを身に付ける援助ができる (幼児)	/			
子どもたちの個性、特性を十分に理解するとともに自ら発言できる機会をつくれる。	70%	30%	0%	
子どもたちに相手の言葉に耳を傾け、意見を尊重することができよう指導ができる。	50%	50%	0%	
社会的ルールを正確に理解できるよう導き、間違いに気づくよう援助している。	64%	36%	0%	・どうしてだめだったのかを自分で気づく事が出来るような声掛けをしている。
身近な友だちとの関わりを通し、相手を思いやり、譲り合う気持ちを身につけるよう援助している。	73%	27%	0%	

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
● 教育 環境 ● (11) 身近な動植物に親しみ、感謝の気持ちや生命尊重の心 自然への畏敬の念を育てることができる 動物や植物に触れ、命の大切さを理解できるように配慮している。	42%	58%	0%	・ピーマンや枝豆等育てる事で食育に興味を持てるように出来た。
(12) 季節により自然や人の生活に変化があることを知らせることができる 草花遊び、泥んこ遊びや雪遊びなど、自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	67%	33%	0%	・外遊びの時間を作って自然に触れる機会を取っていた。
伝統的な年中行事などを保育に取り入れ、地域の人々の生活を直接感じ取ることができる。	58%	42%	0%	
気候や気温の変化で服装や、生活の仕方が変わることに関心くよう配慮することができる。	42%	58%	0%	
(13) 身近な事物(事象、器具、数、時刻、前後左右など) 関心を持たせることができる(幼児) 子どもの探究心、知的好奇心を満たしたり、引き出したたりする ような会話や配慮をしている。	45%	55%	0%	
子ども、職員同士、保護者との間で子どもの興味の対象や、関心の広さを把握し理解している。	45%	55%	0%	
● 教育 言葉 ● (14) 人の話を聞くことができ、日常生活に必要な会話を身につけさせることができる(幼児) 保育士自身が豊で美しい言葉を使い会話するよう心がけ、人の話を聞く態度を身に付けさせることができる。	30%	70%	0%	

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
子どもが自分の話を十分聞いてもらった、伝わったという楽しさや満足感をもてるように配慮している。	55%	45%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育に追われ、十分に聞けない場面があった。 最後まで話を聞くよう心掛けている。
基本的な生活習慣に基づいたあいさつなど、日常生活に必要な言葉を使うことができる。	91%	9%	0%	
(15) 絵本や物語に親しみ、言葉の面白さや美しさに気付くことができる (幼児)				
子どもたちの興味や関心のに沿った絵本や物語を用意できる。	64%	36%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を通して情緒やイメージが豊かになるよう大切な時間としてきた。
感情豊かな言葉で保育士等の思いを伝え、子ども自身の模倣や発言を促すように配慮している。	55%	45%	0%	
子どもの発する言葉や言い回しを受け止めたり、楽しく使ったりして言葉を育てていくように配慮している。	64%	36%	0%	
● 教育表現 ●				
(16) 感動や発見ができるような状況を作り、様々な表現することができる (幼児)				
日々の保育の中で感動や発見ができるよう、変化に富む保育内容に配慮している。	30%	70%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 保育がマンネリ化しないように工夫していきたい。
行事や体験を通して感動したり、発見したりする場を設定し、その後の表現につながる配慮をしている。	60%	40%	0%	
なぜ？ どうして？ の疑問に真摯にこたえ、分かりやすく説明したり、分からなければ一緒に調べたりしている。	60%	40%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達と本やタブレットを使って調べ、納得できる場を作っている。
様々な素材や用具に親しみ、工夫して創作活動を楽しめるよう環境を設定している。	38%	63%	0%	
(17) 音楽に親しみ、歌ったり踊ったり楽器を弾いたりして楽しさを味わう機会をつくる (幼児)				

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
様々な楽器に触れる機会をもち、音楽を聴いたり、歌を歌ったり踊ったりしている。	40%	60%	0%	・クリスマスお楽しみ会に向け楽しみながら参加できるように配慮した。
行事の中で発表する機会があり、成功体験を感じることができたり、自信がついたりするように配慮している。	60%	40%	0%	
子どもの個人差を理解し、能力・適正・興味に応じて楽しく取り組めるように配慮している。	50%	50%	0%	
● 障害児保育 発達 ●	/			
(18) 職員の連携体制の下に援助を行うことができる	/			
適切な援助が行われるように職員全員で障害について理解し、連携ができる体制を構築し、最善の環境をつくるよう配慮できる。	44%	44%	11%	
園においては個別のケース会議などを行い、発達の状況と対応のしかたを確認している。	50%	50%	0%	
障害を持つ子に関わる担当者は、障害児に関する研修を積極的に受けるようにしている。	14%	57%	29%	
(19) 気になる子や障害を持つ子の特質を理解し、適切な発達援助ができる。	/			
障害の種類やその特質を理解することができる。	13%	88%	0%	
気になる子や障害を持つ子への指導計画が立てられる。	29%	71%	0%	
園と個人の指導計画に沿って適切な発達援助ができる。	29%	71%	0%	
必要に応じて専門機関との連携を取ることができる。	63%	38%	0%	・・療育機関の方と話す機会を持ちその子の状態を把握し合うようにした。

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
(20) 親の思いを受け止め、信頼関係と相互理解の下に育ち合う援助ができる				
親の話を十分に聴き、思いを受け止めながら信頼関係を構築することができるように日々心がけている。	33%	67%	0%	
障害の程度や子どもの特徴について相互理解を深められるよう努めている。	38%	63%	0%	
一緒に育ち合う環境作りができる。	33%	67%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保護者のケースに合わせて、内容や言い方等今後も気を付けて行きたい。 ・懇談やお迎え時に子どもについて話す場が持てた。
● 保育の計画及び評価				
(21) 保育の計画				
保育所は保育の目標を達成するために、「保育課程」を編成し、それを具体化した「指導計画」を作成しなければならないことを理解している。	75%	25%	0%	
保育課程及び指導計画は柔軟で発展的なものとし、一貫性のあるものにしなければならないことを理解している。	50%	50%	0%	
保育の計画に基づいて保育をし、保育内容の評価及び改善に努めている。	42%	50%	8%	
「保育の計画」とは、保育課程、長期指導計画及び短期指導計画のほか、食育計画、保健計画、個々の指導計画などの各種計画を総称するものであることを理解している。	50%	50%	0%	
保育の目標とそれを具体化した各年齢のねらいと内容があり、一貫性のある計画が作成できる。	42%	58%	0%	
各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり個々の発達にも留意したものを作成できる。	42%	58%	0%	

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
● 評価 保育マネジメント ●	/			
(22) 保育の内容等の自己評価	/			
保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを理解している。	73%	27%	0%	
保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならないことを認識している。	60%	40%	0%	
(23) 評価、反省し、課題を見出せる (マネージメント)	/			
保育内容についての評価を定期的に行い、その結果に基づき改善をしている。	33%	67%	0%	
職員全体での話し合いがもたれた中で、課題の検討ができる。	33%	58%	8%	・話すようにはしているが足りていない気もしている。
研修会等への積極的、計画的参加をする中で、新たな課題と情報の収集ができる。	25%	67%	8%	・今年度は参加していない為、今後研修に参加したい。 ・もう少し違った研修も受けてみたい。
(24) 安全で保健的な環境が整えられる (乳児保育)	/			
転落事故の予防から、窓の内側に踏み台になるようなものを置いていない。	88%	13%	0%	
玩具、遊具等は1日1回以上掃除消毒をしている。	0%	75%	25%	・毎日は出来ていないので、出来る時に消毒している。 ・口に入れる事が多い為、こまめに消毒をしていきたい。その為に時間を作るようにする。
熟睡できるよう落ち着いた環境を整えている。	50%	50%	0%	

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
ベッドに故障がないか常に点検し、ベッド内に事故につながるようなものは置いていない。	67%	33%	0%	
(25) 乳児の病気が分かり、適切な世話ができる (乳児保育)	/			
検温は1日2回 (午前・午後) を基本とし、必要に応じて随時行っている。	83%	17%	0%	
午睡の状態 (呼吸、顔色、嘔吐、汗) を常に観察するとともに、SIDS (乳幼児突然死候群) のチェックを行っている。	83%	17%	0%	
家庭からの連絡帳の記入を毎朝見て、睡眠時間、授乳の時間等必要事項のチェックを行っている。	100%	0%	0%	
授乳は、子どもが欲しがるときに、抱いて目を合わせて飲ませ授乳後はゲップをさせ、うつ伏せ寝は避けている。	75%	25%	0%	
(26) 乳児の好奇心や発達を促す環境が整えられる (乳児保育)	/			
言葉かけや玩具を通して、目、耳、口、手の感覚機能の発達を促している。	50%	50%	0%	
玩具は与えず、色彩や音色、形、感触などに留意し、清潔にしている。	50%	50%	0%	
楽しんで這い這いが十分にできるよう、安全で自由に移動ができる空間を整えるようにしている。	80%	20%	0%	
手遊びや模倣遊びを楽しませながら、日常生活に必要な身振りに興味を持たせるようにしている。	83%	17%	0%	
安全に配慮しながら、大きい子どもたち (年中、年長) と一緒に遊ぶ機会をつくっていくようにしている。	67%	17%	17%	・土曜保育以外はあまり関わりを持っていない
(27) 乳児の生活の場としてふさわしい温かみや落ち着きのある環境とは何かが理解できる (乳児保育)	/			

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
離乳食の進め方を理解し、楽しい雰囲気でするよう心がけている。	80%	20%	0%	
オムツ交換時は、やさしく言葉をかけながら、楽しい雰囲気の中で取り替えるようにしている。	83%	17%	0%	
落ち着いた雰囲気での抱いたり、語りかけや頬ずりなどをしたりして、人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている。	83%	17%	0%	
● 食育 ●	/			
(28) 食育の推進	/			
保育所は食育の計画を作成し、日々の保育の中で子どもの「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培わなければならないことを理解している。	70%	30%	0%	
担当保育士だけでなく、栄養士、調理師や家庭と子どもの状態を伝え合い、より良い食事ができる協力体制をつくっている。	75%	25%	0%	
食の大切さを知らせ、好き嫌いをなく食べられるよう日常の保育を工夫している。	58%	42%	0%	
食事のマナーや、あいさつの意味を知らせ、食事の前後にあいさつができるように指導できる。また、正しい手洗いの方法を教え、清潔にする生活習慣を身に付けさせている。	75%	25%	0%	・いろいろな事を気にして食事をすするよう、その都度声掛けをしている。
● 指導力 保護者 ●	/			
(29) 保護者との信頼関係をもって話を聴き、状況・問題点などを把握し、的確なアドバイスができる。	/			
保護者の気持ちを思いやり、その気持ちに沿った言葉かけができる。	50%	50%	0%	・保護者の気持ちに寄り添い対応を心掛けている。
(30) 保育士等の連携、家庭との連携を図ることができる	/			

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
早番や遅番で保護者からの伝達事項があるときは、メモを取り確実に伝えている。	75%	25%	0%	・報告・連絡・相談を大切に連携を計っている。 ・自分が聞いたことは伝えるようにしている。
職員会議等で各クラスの状況報告を聞き、担任ではなくても各クラスの様子を把握している。	67%	33%	0%	・出来ている部分と出来ていない部分がある。
● 虐待 ●	/			
(31) 虐待について	/			
虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている。	64%	36%	0%	
《職員の資質向上》	/			
● 社会性 一般常識 ●	/			
保護者に好感の持てるあいさつができる。	75%	17%	8%	・常に心掛けています。
正しい言葉遣いができ、いつも笑顔で対応している。	67%	25%	8%	
電話の要件は間違いがないようメモに残し、確認や伝達を行っている。	67%	33%	0%	・電話対応が苦手な為、聞き漏れ等がないよう気を付けている。
体調不良のときは速やかに通院している。	50%	33%	17%	・発熱でも微熱ぐらいたいと解熱剤ですませてしまっている。
予防接種を受けるなど、できるだけ予防に努めている。	50%	50%	0%	・できる限りはしようと思っている。
日常生活で保育士としての度を超す言動をとらない。	67%	25%	8%	

評価基準	割合			備考
	○	△	×	
保育園及び職員の不満を他言しない。	33%	58%	8%	
勤務開始時間の5分以上前に出勤している。	75%	25%	0%	・5分前から保育に入れるようにしている。
自ら進んで職務を完全遂行する、積極的な姿勢がある。	42%	50%	8%	
掃除などの当番業務を、進んで手伝えることができる。	67%	33%	0%	・できる範囲は行うようにしている。
自分以外の保育士等の担当業務内容を理解している。	33%	58%	8%	
他の保育士等とのコミュニケーションを密にしている。	67%	25%	8%	・職員によっては出来ていないところもある。
会議等で積極的に発言できる。	17%	75%	8%	・意見は言うようにしている。
「皆がやっているから」「以前からの慣例だから」という思いにとらわれない。	42%	42%	17%	
自分だけの不都合かどうか、客観的に考えることができる。	42%	58%	0%	・子どもがいる為、迷惑を掛けている部分がある。
考えたこと、思いついたことを上司に相談できる。	58%	33%	8%	
毎日の終わりに職務を振り返り、反省することができる。	58%	33%	0%	
保育士としての基本である研修に積極的に取り組む意欲を持っている。	42%	58%	0%	
研修報告などで気付いたことを自分の業務に反映できる。	42%	50%	0%	